

神奈川県立山北高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和6年度 神奈川県立山北高等学校 第3回 学校運営協議会
開催日時	令和7年 3月 7日（金） 15:30 ～ 16:30
開催場所	山北高等学校 A棟1階第1応接室
出席者	別紙のとおり
会議資料	1. 令和6年度学校評価報告書 2. 第2回書面開催の結果報告
議事録	<p>(1) 令和6年度学校評価報告書（実施結果）について</p> <p>○学習支援グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちの学習意欲を高める授業づくりに主眼を置いてきた。更なる意欲向上に向け、組織的に取り組んでいきたい。 ・電子黒板が導入され、楽しい学びに繋がる工夫や活用法について模索してきた。生徒の端末を利用した授業作りと共に、電子黒板の活用に係る職員向け研修会を実施したい。 <p>○生活支援グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は警察による非行防止教室を12月に実施することができた。来年度に向け、外部からの支援を活用する時期について検討し、SNSによるトラブル防止等、より有効な生徒指導に繋げたい。 ・トラブルを抱えているが面談を希望していなかった生徒も、SCやSSWに繋げることで、個に応じた支援をすることができた。 ・SC, SSWとのスクリーニング会議を活用し、連携を密にすることにより様々な方向から生徒を支援する体制作りを構築したい。 <p>○生徒会指導グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新や部活動体験会の活発化は本校の広報活動にも繋がると考える。 ・生徒会主体の行事として1, 2学年による体育祭を計画している。今年度3月の実施状況により、来年度に向け、規模や内容について更に検討を進めていく。 <p>○キャリア教育グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路多様校である現状において、異なるニーズに対応し、限られた人材を活かした進路指導を行った。 ・学力に限らず、生徒が自身をアピールする能力が求められる形態の進学、就職試験に対応する策として、小論文模試に取り組んだ。模試の実施ごとに行われるフィードバックの有用性が高かった。 ・2学年時からの就職に向けたガイダンス実施等、適格なサポートが就職率100%の維持に繋がったと考える。 <p>○広報連携グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域によるサポートと生徒の意欲が功を奏し、その成果が発表内容に反映された。 ・発想が机上の空論に留まることなく、具現化され、その有用性が検証されるレベルにまで発展した。 ・2学年時の取り組みにおけるテーマの細分化や福祉施設訪問は地域課題解決への関心を高めた。 <p>○学校管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教室への電子黒板設置は、授業内容の充実だけでなく、機器の運搬不要等、授業者の負担軽減に繋がった。電子黒板導入をオフィス改善の一端と捉えている。 ・教員からの業務依頼が限定されないよう、業務アシスタントの分担業務を詳細に提示することを避けた。 <p>(2) 第2回書面開催の結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お寄せいただいたご意見から、地域の皆様により生徒たちの取り組みが温かく見守られ、支えられている様子が窺える。 ・生徒たちのプレゼンテーション力の高まりが認められ、高く評価されている。 ・山北町との協働により、本校の取り組みが継続、発展することが期待される。 <p>(3) 委員から意見聴取</p> <p>○関係行政機関の職員（有識者）より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板の配置台数や稼働率はどれくらいか。 →（学習支援グループより）全18クラスに配置され、ほとんどの科目で利用されている。有効活用として生徒の一人一台端末とリンクさせた学習を視野に入れている。 <p>○関係行政機関の職員より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動部、文化部双方で部活動の活性化が図られることを期待する。 ・美術部はあるのか。美術が得意な生徒もいると思うが。 →（生徒会指導グループより）現時点では「ない」。山高祭で掲示する看板作成が、美術に関心が高い生徒にとって一つの活躍の場になっていると考える。

○地域住民より

・発表として選ばれた4つテーマはどのように決定されるのか。

→（広報連携グループより）グループごとに発表し、優れた内容を全校生徒で共有し、さらに高く評価された発表を町への提言とする。

・年度を超え、同一のテーマを扱い、検証結果を踏まえ、異なる視点から取り組むことを要望したい。

○保護者より

・「山北高校は人との繋がりを尊重している」との印象をもっている。日々の授業や部活動を通して、厳しさや優しさが子供たちへ伝えられ、成長が育まれている。我が子が日々、「学校が楽しい」と言って、学校での出来事を家族に話す姿を非常に喜ばしく感じてきた。子供たちや保護者の心を豊かにする学校運営の方針に感謝申し上げたい。

○関係行政機関の職員（有識者）より、総合的な評価と提言

・電子黒板活用を含めた教材研究、分かる授業づくり、サポートブックによる個に応じた支援など、様々な要素を活かした生徒に寄り添う指導が、進路指導の成果に反映されている。

・町とのコラボレーションによる探究活動において、取り組みの検証や見直しを深めることが有効である。